

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	府中保育園
期間	令和 6年 8月 ～ 10月

1. 活動のテーマ

<テーマ>

5歳児：ことば遊び

<テーマの設定理由>

もじかずぼんを通して、平仮名、言葉に興味を示し始めたので、就学に向けてもっと興味関心を持ってもらおうと言葉遊びを遊びの中で取り入れていきたいと思った。

2. 活動スケジュール

- ・6、7人のグループに分かれ、『あ』のつく身の回りにある物を探し、平仮名が書ける子が紙に書き各グループ発表する。
- ・言葉を使った遊びは何があるか皆で考え、グループ毎に話し合う。
- ・決まった遊びをどのように進めるか子どもたちと考え、係分担を決める。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・紙、鉛筆、マーカーペン、平仮名表

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・小グループに分かれ『た』の付く身の回りにある物を探し、平仮名が書ける子に皆が出た言葉を書いてもらい発表をした。
- ・言葉を使った遊びは何があるか考え、グループ毎に話し合い発表してもらった。子どもたちからは、新聞作り、絵本作り、かるたの案が出た。皆で作った物で遊べる物と考え『かるた』に決まった。
- ・クラスにあるかるたを見せ文章を考えるように伝えた。又、文章と絵が繋がるよう見本を大きく描き一人一つ作るように伝えた。
- ・文章は子どもたちが考え読み札には保育者が書いた。
- ・余った文字は書きたい子が書くようにした。書きたい子が多かったので、ペアになり文章を書く子、絵を描く子に分かれて作製した。（余った文字のみ文章を書きたいと声があったので平仮名表を見ながら子どもたちが書いた）
- ・完成したかるたを皆で楽しんだ。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- グループに分かれ『た』の付く物を探す。
「私が書けるから書くよ」と書く人を決める。
『た』の付く物があるか周りを見渡す。
「たいこ」「たこ」「たいや」等。



- かるた作りに決まり、一人一つ作る。
文章は保育者が書き、絵は子どもたちが描いた。絵が描けない子は、保育者にアドバイスをもらいながら描いた。



保育者が書いた札

子どもたちが書いた札

- 完成していないかるたは子どもたちから「読み札の文字を自分たちで書きたい」という声があり平仮名表を見ながら書いた。



- みんなで作ったかるたを順番に少人数で楽しんだ。
「僕が読みたい」「私も読みたい」
「順番で読めばいいじゃん」
「じゃんけんで先に読む人を決めよう」



5. クラスで話し合い、良かったこと、次につなげたいこと、課題

- ・言葉探しを通して沢山の語彙の取得に繋がった。又、自分で読み札を書いたり、友だちと一緒に作った事でより特別感が出て更に文字への興味が高まった。
- ・繰り返し行う事で反射神経が高まった。又、読み手の声に耳を傾けたり、目を凝らしてカードを探為集中力も高まった。
- ・読み手の言葉を聞いて覚えた絵札を取る事で記憶力が高まった。
- ・少人数で遊ぶ事で会話が増え、コミュニケーション能力が高まった。
- ・勝ち負けではなく、友だちと遊ぶ協調性が身についた。喧嘩にならないよう相手に譲ったり歩み寄り姿も見られた。
- ・平仮名を書くのが苦手だった子も興味を持った。

- ・平仮名を書く事に最後まで興味が持てなかった子もいた。かるた作りは興味を示さなかったが、かるた遊びは楽しんでた。そこが今後の課題となる。
- ・平仮名に興味を持った子が増えたので、引き続き興味が持てるよう平仮名に触れていく活動を取り入れていく。

6. 次の活動

<活動内容、新たに準備した素材・設定等>

- ・活動内容：絵本、紙芝居の読み聞かせ
- ・準備した素材：絵本、紙芝居
- ・設定環境：午睡前にグループで前に出て順番に読む

<活動中の子どもの姿等>

- ・研修発表の際、職員から頂いた言葉遊びや文字への興味に繋がるアドバイスの中から『絵本、紙芝居の読み聞かせ』をすることにした。

※アドバイス内容：しりとり、絵しりとり、絵本読み、読み聞かせ、単語を繋ぎ合わせて文を作る（5 W1H）、自分の名前であいうえお作文、すごろく、絵本作り、「○」が付く物を探す散歩→帰ってきたら発表する等）

- ・午睡前、グループで前に出て皆の前で紙芝居を読んだ。聞いている友だちも静かに聞いたり、読む順番が回ってくる事を楽しみにしていた。
- ・長いお話の紙芝居だと読むのが難しい為、いちご組（1歳児）にある紙芝居を借りて文字が少なく簡単な内容のものから始めた。



7. 振り返り

<本活動によって得た保育者の気づき>

- ・遊びの中で沢山の興味、関心を持ち『探究心』が芽生え、その積み重ねで意欲や自己肯定感などの非認知能力を高める事に繋がったと感じた。
- ・子どもたちの能力を理解し、意思を尊重しながらより適切な環境を設定していくことが大切だと改めて思った。又、少人数でのディスカッションを通して、自分の考えを相手に伝え、又、相手の意見も聞きながら自分たちで学ぶ姿勢や楽しさを互いに引き出していたように見えた。
- ・今までの様子を画像で残したり記録を取る事で分析ができ、子どもたちをより理解できた貴重な研修となった。